

起句	01	やわらかき光を集めゆすらの実	悦子
	02	天道虫に映る悉皆（しつかい）	恆雄
	03	夏木立下校の児らのさざめきて	七緒
	04	はためく衣色とりどりに	恆
月	05	姫君を迎える月の使節たち	七
折端	06	竹伐る音の城の裏山	恆
折立	07	栗の毬夫夫（それぞれ）に秘め護るもの	恆
恋	08	あつけなかつた手花火の恋	七
	09	鳩笛で誘い忘れたパパゲーナ	恆
	10	ウイーン土産はチョコで充分	七
	11	冬暖か音盤で聴くクアルテット	以
	12	不在地主が囲む猪鍋	七
月	13	弦月や研がれて細し空風に	恆
	14	高島易断の暦買う人	以
	15	日録に去年の今日を調べる日	恆
	16	パトカー送る受験生あり	七
花	17	落花微塵むかし秀才いま只びと	以
折端	18	よもぎ餅には早摘みがよい	七
折立	19	白酒にほろ酔い加減膝の猫	恆
	20	歯を磨く手に春の蚊飛来	以
	21	フィンランド キシリトールはふんだんに	七
	22	鱧を釣る糸打ち返す波	以
	23	鯖舟にくらげ纏わり宵迫る	恆
	24	米朝が待つ終戦記念日	七
恋	25	出囃子の音々（ねじ）め一転華やかに	以
	26	唄の文句を地で行く暮らし	恆
	27	初嵐ロツテが漏らす詩人の名	七
	28	コスモス倒れひとすじの道	恆
月	29	雨月なり教会の窓に灯ともる	以
折端	30	半分青い秋刀魚の刀身	七
折立	31	唐松の枯葉の針の踏みごこち	恆
	32	余寒あり風邪いまだ癒らず	以
	33	学園通り鶯啼くは啼くは	七
	34	浅蜷・蜆と売り歩く声	以
花	35	花の影密かに目覚め未知の生	恆
	36	おたまじゃくしの尾の取れるころ	七